

古代山城築城の意義

古代山城はいつ築かれ、築城にはどのような歴史的意義があったのか。

紀記には 663 年の白村江の戦い後、665 年に大野城・基肆城、667 年に金田城・屋島城・高安城といった古代山城が築かれたことが記されており、文献に記載された諸城は朝鮮式山城と呼ばれています。またそれ以外にも文献に記載されていない城が確認されており、それらは神籠石系山城と呼ばれています。このように 7 世紀後半前後の九州～瀬戸内海沿岸では、様々な古代山城が築城されました。

ただし築城記事のない朝鮮式山城や、文献に登場しない神籠石系山城は築城時期が明確ではなく、築城の背景についても様々な意見がだされています。また広大な古代山城の築城には多くの労働力が必要で、築城の意義を考えるにあたっては前後の時期の集落動態にも注意を払う必要があります。

今回のシンポジウムでは瀬戸内海沿岸でも吉備、讃岐における古代山城の築城年代、築城技術、周辺集落の動態を検討します。特に、神籠石系山城の位置付けを考える上で重要な鬼ノ城に着目します。また律令制の施行によって各国に作られる国府や国分寺・国分尼寺との関連性にも着目し、地域的な歴史展開とその背景についても考えてみたいと思います。

日時 2018 年 2 月 17 日 (土) 13:00 ~ 16:45

会場 岡山大学自然科学研究科棟大講義室
(岡山市津島中 3-1-1)

- 13:00 ~ 13:05 開会あいさつ
- 13:05 ~ 13:10 趣旨説明
- 13:10 ~ 13:55 小澤 佳憲 (九州歴史資料館)
「石垣構築技術から見た鬼ノ城跡の位置づけ」
- 13:55 ~ 14:40 南 健太郎 (岡山大学埋蔵文化財調査研究センター)
「古代山城の築城と集落動態からみた 7・8 世紀の吉備地域」
- 14:40 ~ 15:00 休憩
- 15:00 ~ 15:45 渡邊 誠 (高松市埋蔵文化財センター)
「古代山城の築城とその後～讃岐地域を事例として～」
- 15:45 ~ 15:50 休憩
- 15:50 ~ 16:40 討議
- 16:40 ~ 16:45 講評・コメント

※シンポジウム終了後懇親会を予定しています。参加ご希望の方は 2/11 (日) までに下記アドレスまでご連絡ください。

岡山例会アドレス: okayama_reikai@yahoo.co.jp

お問合せ

考古学研究会事務局

〒700-0027 岡山県岡山市北区清心町 16-37

長井ビル 201

TEL・FAX 086-255-7840

okayama_reikai@yahoo.co.jp (岡山例会アドレス)

http://www013.upp.so-net.ne.jp/kouken/